

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)  
／山根 秀憲

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

テーマ「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」(この研究は、音楽コース教員全員で取り組むものである。)

音楽科授業実践力の育成をめざした教員養成コア・カリキュラムを有効に生かすために、音楽科の基礎的な教科専門科目群と音楽科のコア科目群との関連に着目し、学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科の基礎的な教科専門科目群の内容構成と授業プログラムと評価モデルを開発し、PDCA サイクルを生かしたFDの研究活動の可能性を検討する。

#### 2. 点検・評価

テーマ「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」で科研費申請に応募した。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

平成24年度、管楽器分野を中心として音楽や音楽教育を研究しようとする学生は、4人が入学する予定である。課題研究について質的内容を保証するためには、管楽器分野のこれ以上の学生増は困難である。しかし、管楽器分野の入学者を継続的に一定数以上確保するためには、引き続き学生募集の取り組みを行う必要がある。具体的には、以下のような取り組みを行う。

- ①コース紹介のパンフレットの作成やホームページのさらなる充実を図り、広報活動をより機能的にする。
- ②教員の出演する演奏会等でコース紹介パンフレットを配布するなどの広報活動を行う。
- ③学部3,4年生の中で管楽器分野を卒業研究とした学生に対し、大学院進学への進学意識を高めるために、大学院修了生や在学中の大学院生の研究内容を紹介したり、交流の場を設ける。

#### 2. 点検・評価

- ①今年度もコース紹介のパンフレットを作成した。
- ②関係する演奏会のプログラムに、コース紹介のパンフレットを添付した。
- ③学部3,4年生の中で管楽器分野を卒業研究とした学生に対し、大学院進学への進学意識を高めるために、大学院修了生や在学中の大学院生の研究内容を紹介した。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①「管弦打楽器演奏基礎」「管弦打楽器」の授業において、学生の状況に応じた曲目を選定し、アンサンブルの機会を作るようにする。
- ②「器楽」の授業で得られた学生の準備状況や希望を参考にして、「管弦打楽器演奏基礎」「管弦打楽器」での指導を行う。
- ③管弦楽分野について学生が自学自習できるような資料の充実と利用促進を図る。
- ④授業での活動がより豊かな音楽体験となるよう、学内演奏会への出演をさらに促す。

#### 2. 点検・評価

- ①学生の状況に応じた曲目を選定し、アンサンブルの機会をできるだけ組み込んだ授業を行った。
- ②「器楽」の授業での様子をふまえて、続く授業での指導のあり方を模索しながら授業を進めた。
- ③自学自習に有効と思われる資料の収集に努め、学生へ利用を薦めた。
- ④授業での活動の成果の発表の場として、学内演奏会への出演を有効に利用できた。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①徳島バロックアンサンブル、広島弦楽合奏団との連携により、従来からの研究テーマ「バロック音楽の研究」を継続して行なう。
- ②中国及び台湾の民族音楽専門家との連携により、民族音楽に於ける個々の楽器のための作品及び合奏作品について研究を進める。

#### 2. 点検・評価

- ①徳島バロックアンサンブル、広島弦楽合奏団との連携により、従来からの研究テーマ「バロック音楽の研究」を継続して行った。
- ②中国及び台湾の民族音楽専門家との連携により、民族音楽に於ける個々の楽器のための作品及び合奏作品について研究を行った。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

音楽コース長として、本学の運営に貢献する。  
音楽コース選出の大学院教務委員会委員として、本学の運営に貢献する。  
芸術健康系教育部選出の予算財務管理委員会委員として、本学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

音楽コース長として、本学の運営に貢献した。  
音楽コース選出の大学院教務委員会委員として、本学の運営に貢献した。  
芸術健康系教育部選出の予算財務管理委員会委員として、本学の運営に貢献した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

①徳島市, 広島市の音楽団体との交流を行う。(社会連携)  
②台湾(台北市及び新店市)の民族楽団との交流を行う。中国(北京市)の民族楽団との交流を行う。(国際交流)

### 2. 点検・評価

①徳島市の徳島リコーダー・コンソート, 徳島バロック・アンサンブル, 広島市の広島弦楽合奏団などの音楽団体との交流を行った。(社会連携)  
②台湾(台北市及び新店市)の民族楽団との交流を行った。中国(北京市)の民族楽団との交流を行っている。今年度は中国との関係が以前にもまして不安定であったため、北京市の民族楽団との交流は限定的にならざるを得ず、メールのやり取りに主であった。(国際交流)

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)